

こんなにすごい わらべ歌の効用

	元気な体を作る	器用に動かせる手を作る	見る・聞く・話す力を育てる	心が育ち、知力が向上する	人と気持ちを分かち合い、 社会の一員になる
どんぶらこ	「揺れる」動き ⇒バランスを取る力 ⇒体の筋肉をじょうずに使いこなす力	おとなにしがみついたり、つかまったり。 自分からつかまる力は器用な手への第一歩。	体が動いている ⇒おとなの声が聞き取りやすい	最後に「どっすーん」と大揺れする楽しみが大切。⇒見通しを持って待つ力のおおもとです。	ちょっと怖いけど、おとなと一緒にだから大丈夫！ という安心感を学びます。
ひげいさん	坐ると下半身が安定します。 すると上半身(腕や肩)を安心して、意識して動かさせます。	げんこつでの両手交互の動き。 腕全体の大きな動きは微細な器用な動きの基礎です。	「とんとんとんとん」という繰り返し ⇒次のことばへの注目度を高めます	ほっぺ、あごなどの場所(身体部位)に手が触れることで自分の体の感じ(ボディイメージ)がつかみやすくなります。	ボディイメージは「自己意識」「自我」の確立のために大切な要素
あたま肩ひざボン	触れることで体の部位を意識します。	手を「あたま」「肩」「ひざ」と順序よく動かす。 思い通りに動かせる手は「製作」や「お絵かき」の基礎。	大人が楽しいリズムと一緒に体の位置を示してくれるので、注目しやすくなります。	あたま・肩・ひざは、体の部位の中でも大事なポイント。しっかり意識できることが大事。	「ひざボン」の間じゅう次はどこかな？と期待して待ちます。じょうずにできてうれしい気持ちを共有します。
ちよちよちあわわ	口も手も、触れることでその存在に気づきます。「存在に気づく」ことが「じょうずに動かす」ための基礎	「手を合わせ⇒片手だけを口に運び⇒左右逆に回転させ⇒一本指を立てて反対側の手に触る」。一連の順番のある動きが手の動きを高めます。	無意味だけれどおもしろい音の連続。 音への注目や発音をまねようとする力を育てます。	《何だか分からないけど楽しい気持ち》が学習の基礎です。	おとなが手を添えてやってくれる「あーわーわ」から自分ひとりでやる「あーわーわ」へ。 自立の前提は親しい人に十分に支えられる経験です。
糸をまきまき	座った姿勢 ⇒安定感がある。 注目する力がよく働きます。 上半身の自由度も増します。	ゲンコツをつくり⇒体の前で回し ⇒左右に広げ⇒体の前でトントンという、順番のあるなめらかな動きが身につきます。	うたやリズムの助けがあるので、心地よく、楽しく聞けます。	最後に何かが「できる」という目標に向かって楽しく参加できます。	「できたもの」をおとなと一緒に見て確認。このことを「共同注意」とか「三項関係」とか言いますが、ことばの基礎になる力です。
いっぼん橋	くすぐり遊びは、楽しい中で全身の筋肉を緊張させる、大切な経験。 筋緊張は「歩く」ための基礎。	「してもらい」遊びですが、他人が手に触れてくれることで、「手」に強く注意を向けることができます。	「階段のぼって・・・」のところでわざと少しリズムをくずすと、触られている部位に注意を向けやすくなります。	「こちょこちょ」「たたいて」「つねって」「(階段を)のぼる」などのことばが動作と一緒に自然に覚えられます。	くすぐりが来るかな、来るかな？と期待して待つ、くすぐられて笑う、笑顔を親子で共有する。どこをとっても申し分のない遊びです！